

弊社 S R I 業務に関して、新聞紙上において以下のように紹介されております。

2008年5月4日（日）日経ヴェリタス 49面

利回り2%と温暖化防止を両立？地球も潤うエコ投資

増える「環境銘柄」投信

常連は大型株 独自性探る動きも

太陽光発電や風力発電を運営するNPO系ファンドなどへの出資以外に、環境保全活動に熱心な「環境銘柄」と呼ばれる企業の株式に投資するのも広い意味でエコ投資だろう。環境問題などをテーマに組み入れ銘柄を選択した社会的責任投資（SRI）投資信託は10年ほど前に登場、「過去1年間でも設定本数と運用額の双方で伸びている」（日本総合研究所ESGリサーチセンターの足達英一郎首席研究員）。例えば古株の「日興エコファンド」（1999年設定）と「損保ジャパン・グリーン・オープン」（同年設定）をみてみよう。両ファンドとも直近で上位に組み入れている銘柄は、トヨタ自動車や三菱UFJフィナンシャル・グループなど大型株だ。企業イメージ向上の狙いもあり、多くの大企業は環境問題に熱心な姿勢をみせている。このため、環境をテーマに銘柄選択すると大型株が“常連”になる。その結果、こうしたファンドの運用成績が市場平均と大差なくなるのは否めない。SRI投信を分析した野村アセットマネジメントのレポートによると、日本株に投資するSRI投信の年間平均リターンは2000～06年度でTOPIX（東証株価指数）とほぼ同じだった。同社の五月女季孝シニア・マネージャーは「SRIの視点で銘柄を選んだ投信の対象が、株価指数を構成する銘柄とほとんど同じためではないか」と指摘する。言い換えれば、もはや漠然とした「環境」というテーマではなく、より独自性の高い基準で銘柄を選択しなければ運用成績で他ファンドと差別化できないということだ。こうした動きは既に出はじめている。公募型SRI投信向けに銘柄選択情報を提供する[インテグレックス（東京・渋谷）](#)は、テーマをより絞り込んだ銘柄選択を始めた。具体的には気候変動問題に対する経営者の問題意識や企業の指針、社内体制づくりなどを評価する。現在は調査段階だが、データがそろえば気候変動や地球温暖化といった問題に取り組む企業の情報を、投信の運用会社などに提供していく方針だ。インテグレックスの情報などを基に、気候変動を抑制する技術を持つ企業や、地球温暖化防止のためのCO₂削減に熱心な企業を組み入れた投信が登場する可能性もある。